

研究をまとめ論文を投稿することができたので、研究をする為に滞在した事を少しは示せたのかもしれない。

研究以外の生活環境も、非常に快適であった。街はコンパクトにまとまっており、生活に必要な物は全て徒歩圏内に位置し、便利であった。私が関わった街の人たちは、短期滞在の研究者に慣れているのか、そもその気質なのか、優しく親切な人が多かった。治安の面も問題なく、研究を終え夜中に帰る時も危険を感じる事は無かった。ただ、物価が高いことと、冬の日照時間の短さは難点だった。帰国時の11月

には、サマータイムが終わり、午後3時半には外が暗くなってしまった。北欧に鬱な人が多いという噂は本当かもしれない。イギリスは夏に行くべきだ。食事に関して、渡航前に、イギリスへ滞在することを告げた知人には、“料理が不味いらしい”と必ず言われた。しかし、フィッシュ & チップスは気に入ったし、日本料理も含め各国のレストランが並んでおり、食事に不自由することは無かった。

今回のケンブリッジ滞在では、今までとは少し異なる研究課題に取り組み、知識と技術を増やす事ができたと感じ

ている。さらに、様々なバックボーンを持つポストドクと話をすることで刺激を受け、上記のメインの研究課題以外にもポリマーなど幾つか計算を始める事ができた。また、少しは人脈を作れた事で、情報交換だけでなく、将来的に再度共同研究をする可能性もあると考えている。

最後になりますが、このような機会を与えて下さった大峯所長や小杉教授、滞在のサポートをして頂いた分子研大学院系の皆様や総研大学務課の我謝様に心より御礼申し上げます。

E V E N T R E P O R T

教員報告 総研大アジア冬の学校2012

2012年度担当教員 分子制御レーザー開発研究センター 准教授 藤 貴夫

総研大アジア冬の学校が平成25年1月14日(月・祝)から17日(木)にかけて岡崎コンファレンスセンターで開催されました。分子研で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学生・大学院生および若手研究者の育成に広く供することを目的として平成16年度に始まり、今回で9回目になります。海外からの参加者は27名でその国籍別の内訳はタイ16人、中国7人、インドネシア1人、マレーシア1人、台湾1人、韓国1人でした。そのほかに総研大生、分子研の若手研究者など、日本国内からの参加者が20人であり、参加者の合計47人でした。

今回は、テーマを「Frontiers in Photo-Molecular Science」としました。分子研の永田先生、岡本先生、平等先生に加えまして、海外から招待したBaltuska先生と、若手独立フェローの石崎先生にもご講演いただき、

分子研で講義する機会のない先生方にもご講演いただくことで、分子研内の学生の人たちにとっても、新鮮な内容になるようにしました。

特に今年度は櫻井先生から応募期間中にタイのほうで強力にご宣伝いただいたことによって、海外からの応募者の人数は、前年度の4倍程度とな

る108人となりました。30名以下まで絞り込む選考はかなり苦勞をしましたが、昨年と比べてまじめな学生が多く、講義中やその後での質問なども多くあったと思います。有意義なイベントとするためには、今後も、しっかり宣伝していくことが重要であることがわかりました。



担当教員 総研大夏の体験入学2012

2012年度担当教員 総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 唯 美津木

2012年8月6日(月)から9日(木)までの4日間、分子科学研究所において、第9回総研大夏の体験入学が開催された。本事業は、他大学の学部学生・大学院生に対して、実際の研究室での体験学習を通じて、分子科学研究所(総研大物理科学研究科構造分子科学専攻・機能分子科学専攻)における研究環境や設備、大学院教育、研究者養成、共同利用研究などの活動を知ってもらい、分子研や総研大への理解を深めて頂くことを目的としている。本年度は、定員を大幅に超える応募を受け、選考の結果、32名の学生(学部学生25名、大学院修士課程学生4名、専門学校生3名)に参加頂いた。

6日14:00から明大寺地区でオリエンテーションを開催し、総研大・分子研の紹介の後、各実施グループの体験プログラムの紹介を行い、UVSORと計算科学研究センターの施設見学を実施した。夕方からは、職員会館において歓迎会を開催し、全参加学生に自己

紹介を兼ねて、体験入学の抱負を語ってもらった。所内からも非常に多くの方に参加頂き、100名を超える盛況であった。7日、8日の2日間は、終日、各グループにおいて体験プログラムを実施した。最終日の9日には、2日間で実施した体験プログラムの結果を個別に発表してもらい、多くの質疑応答があり、充実した体験プログラムであったことが伺えた。

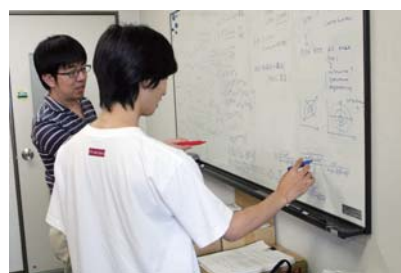
終了後に実施したアンケート結果では、実験系・理論系ともに研究体験が有意義であったとの回答が多数を占めた。また、大学と比較して、学生あたりの教員や研究設備が充実しており、研究環境として魅力を感じるという回答が多かった。一方、2日間の日程では、専門的な知識や準備の不足、初めての実験内容で、体験プログラムが難しかったという意見もあった。総研大への入学を進路の選択肢として考えている方も複数参加しており、来年は総研大生として本事業に協力したいとい

う方もおられた。

最後に、本事業にご協力頂きました全ての先生方、皆様方にこの場を借りて厚く御礼申し上げる次第です。



各グループでの体験プログラムの様子



オリエンテーションの様子



玄関前での集合写真